

報道関係者各位
プレスリリース

2010年12月3日

Kyoto Cross Media Experience 実行委員会

HISTORICA 2010 実行委員会

時代劇の聖地・京都太秦で開催される新感覚の歴史映画祭、HISTORICA2010のクロージング作品とクリエイターズ・サミット登壇者が決定！
チャン・ドンゴン ハリウッド主演第一作『ウォリアーズ・ウェイ』ジャパン・プレミアを開催。



HISTORICA 2010 (主催：Kyoto Cross Media Experience 実行委員会 HISTORICA 2010 実行委員会／開催日：2010年12月10日～12月12日／開催会場：東映京都撮影所、松竹京都撮影所他)のクロージング作品として、『マトリックス』『ロード・オブ・ザ・リング』のバリー・オズボーン氏プロデュースによるチャン・ドンゴン主演、イ・スンム監督アメリカ進出第一作「ウォリアーズ・ウェイ」(12月3日全米封切)が決定致しました。今回が日本での初上映となります。

クロージング上映は、12月12日(日)15:30より東映京都撮影所第一試写室にて行われます。

さらに、HISTORICA 上映作品ゲストと世界で活躍する映画人が集結する『クリエイターズ・サミット』の登壇者が決定！『ウォリアーズ・ウェイ』スタッフをはじめ三池崇史監督らが各国の歴史映画製作について体験談を交えながら議論します。

上映作品及びセミナーの概要につきましては、下記をご参照下さい。

- * 各詳細につきましては別添資料1（クロージング）・別添資料2（クリエイターズサミット）をご参照下さい。
- * HISTORICA 全上映作品の情報につきましては別添資料3をご参照下さい。
- * 別添資料1,2,3はプレスキットダウンロードURLより入手可能です。
プレスキットダウンロードURL
<http://www.historica-kyoto.com/press1/>
- * 本件に関する最新情報は、HISTORICA 2010公式サイト及びtwitterアカウントにてご確認下さい。

HISTORICA 2010公式サイト

<http://www.historica-kyoto.com>

Twitter

<http://twitter.com/historica2010>

記

HISTORICA2010 クロージング上映

『ウォリアーズ・ウェイ』 ジャパン・プレミア

* 上映後にゲストによるQ&A・セミナーを開催

上映日時：2010年12月12日（日）15：30～

会場：東映京都撮影所 第一試写室（京都市右京区）

ゲスト：

イ・スンム（『ウォリアーズ・ウェイ』監督）

マイケル・ペイサー（『ウォリアーズ・ウェイ』プロデューサー）

イ・ジュイック（『ウォリアーズ・ウェイ』プロデューサー）

作品情報

『ウォリアーズ・ウェイ(Warrior's Way)』（2010）

監督：イ・スンム

出演：チャン・ドンゴン、ケイト・ボスワース、ジェフリー・ラッシュ

上映時間：100分（予定）

公式サイト（米国版）：<http://www.iamroque.com/thewarriorsway>

作品解説

かつて世界に名を馳せた東洋の剣士は仲間を捨て、新しい生活を求めて荒野へと旅立った—

『ウォリアーズ・ウェイ』は、重力に縛られず宙を舞う壮麗なアクションを軸に、西部劇と時代劇を融合した新感覚の歴史アドベンチャー大作です。韓国の人気俳優・チャン・ドンゴンをはじめ、ケイト・ボスワース、ダニー・ヒューストン、そしてアカデミー賞受賞俳優ジェフリー・ラッシュが共演、実力派ぞろいのキャストが作品に花を添えています。脚本・監督のイ・スンム、撮影監督には『晩秋』のキム・ウヒョンら韓国人スタッフに加え、『マトリックス』『ロード・オブ・ザ・リング』のバリー・M・オズボーン、『スピード2』『マチルダ』のマイケル・ペイサーらをプロデューサーに迎え、韓国とハリウッド、さらに世界中の映画人たちが結集し、かつてないグローバルプロジェクトが誕生しました。ロケーション撮影はニュージーランドで行われ、無国籍でボーダレスな世界観が表現されています。

クリエイターズ・サミット

国やメディアの垣根を越えて変化し続ける歴史創作コンテンツ＝レキシゲキは、世界中の人々を魅了するクールコンテンツへと成長し続けています。クリエイターズ・サミットでは進化する『レキシゲキ』を支える1) VFX 技術2) クロスメディア3) 国際化の3つのファクターに着目し、世界の時代劇製作の第一線で活躍する方々とともに、これからの『レキシゲキ』製作について議論します。同時に、時代劇の聖地・太秦で、京都の時代劇製作の将来についてグローバルな視点から議論も行います。皆様のご来場をお待ち致しております。

クリエイターズ・サミット 1

『重力からの解放—変化するレキシゲキアクション』

開催日時: 2010年12月11日(土) 12:45~14:45

会場: 東映京都撮影所第一試写室

*日本語・英語による同時通訳あり

登壇者:

チェ・ヨンファン (『チョン・ウチ』撮影監督・俳優)

ホ・ミョンヘン (『チョン・ウチ』武術監督)

マイケル・ペイサー (『ウォリアーズ・ウェイ』映画プロデューサー)

米田武朗 (東映京都撮影所 エディター)

これまでマンガやアニメでしか表現できなかった重力に縛られずに宙を舞い、縦横無尽に飛び回るアクションが、VFXの進化によって可能となりました。このことは同様に、旧来の時代劇に変化を与え、ファンタジーや伝説をモチーフにした作品が作られるきっかけにもなりました。クリエイターズ・サミット1ではアクション歴史劇の製作経験を持つ映画人を集め、VFXが可能にした映像表現と太秦の時代劇に代表されるアクション技術の今後について語り合います。

クリエイターズ・サミット 2 『歴史エンタテインメント新潮流』

開催日時：2010年12月11日（土）16:00～18:00

会場：東映太秦映画村中村座

登壇者：

大友啓史 （大河ドラマ『龍馬伝』演出）

佐藤幹夫 （NHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』演出）

北見 健 （『維新の嵐 疾風龍馬伝』、『信長の野望』シリーズプロデューサー）

鳥羽洋典 （『刀語』シリーズプロデューサー）

中村彰憲 （立命館大学映像学部准教授）

歴史という民衆の間で共有された世界観から生まれた物語によって、様々な形で表現される『歴史エンタテインメント』。クリエイターズ・サミット2では、歴史創作というジャンルにおいて一流のエンタテインメントをつくりあげた方々をお招きし、如何にメディアの特性と、時代劇という世界観を生かしながらメッセージを発したのかについて語っていただきます。

クリエイターズ・サミット3 『越境するレキシゲキ』

開催日時：2010年12月12日（日）18：30～

*** ウォリアーズ・ウェイ上映、Q&A 終了後**

会場：東映京都撮影所第一試写室

***日本語・英語による同時通訳あり**

登壇者：

イ・ジュイック（『ウォリアーズ・ウェイ』プロデューサー）

イ・スンム（『ウォリアーズ・ウェイ』監督）

ジョン・マイヤー（プロダクション・デザイナー）

三池崇史（映画監督）

モデレーター： 井関惺（映画プロデューサー）

これまで国内向けに製作されてきた歴史大作の多くが、インターネットメディアの普及等によってグローバル展開されるようになりました。クリエイターズ・サミット3では国際化する歴史映画を支える背景やその戦略について考えます。歴史映画が『越境する』ために生み出される物語やそこから生み出されるイメージはどのようにして創りだされるのか—国際共同製作の経験が豊かな登壇者を集め、その経験や知識を共有していきます。

クロージング上映／クリエイターズ・サミット

及び全ての上映・セミナーの入場方法

全てのプログラムは、下記公式サイトからの事前応募のみで受付を行います。
入場料は無料です。

HISTORICA2010 公式サイト：<http://www.historica-kyoto.com/>

申込期間：2010年11月22日（月）12時～12月6日（月）24時まで

抽選発表：2010年12月8日（水）までにメールにて通知いたします

*応募者多数の場合は抽選となります。

*クロージング上映は、2010年12月3日（本日）正午より受付開始

*応募者多数の場合は抽選となります。

HISTORICA2010 公式サイト：<http://www.historica-kyoto.com/>

問い合わせ先

1) 本リリースの内容に関するお問い合わせ

東映京都撮影所 製作部 製作営業室

TEL: 075-862-5045（担当：権藤・高橋）

FAX: 075-862-5037

2) 入場方法に関するお問い合わせ先：

HISTORICA 運営事務局

(株)ディレクターズユニブ内)

TEL：075-371-4005

取材・プレス資料問い合わせフォーム

<http://www.historica-kyoto.com/ja/press/index.html>

■プレスキットダウンロードのお願い

HISTORICA・クリエイターズ・サミットに関するプレス用のキットをご用意させていただきました。ぜひご活用下さい。

本文章以外に写真などが入っております。URL は隠し URL となっており、直接 URL を入力いただくことでキットがダウンロードできます。

プレスキットダウンロード URL

<http://www.historica-kyoto.com/press1/>

以上。